宇和島市の部活動地域展開
3つの類型を実現する、具体策

学校運営協議会制度 × 地域学校協働本部体制

実現に向けた提案



学校運営協議会
学校と地域で方針・必要な支援を協議

⟷

地域学校協働本部
推進員等が人材・団体をつなぎ、実務を支援



協議 → 実践 → 振り返り

① CC制度を通した地域クラブの創設

CC＝コミュニティコーチ

課題：指導者・人数の不足、拠点校への移動

協議会で話し合う

- 子どもの希望を基に、学校単位型・拠点校方式を検討
- 学校施設の活用、学校との連携方針を整理
- 必要な指導者（CC）の確保について協議

協働本部がつなぐ

- 協議会の協議に基づき地域の経験者を発掘
- 発掘した経験者の情報を学校運営協議会で報告
- 学校と地域指導者をつなぐ



② 地域団体等が主体となる地域クラブの創設

課題：受入能力の地域差、会費負担、学校との連携

協議会で話し合う

- 現在の認定クラブの情報を共有
- 認定クラブの候補情報を共有
- 今後の対応について協議

協働本部がつなぐ

- 認定クラブの情報を一覧化



③ 地域学校協働本部体制による地域密着型地域クラブの創設

課題：責任分担、事務局・人材・財源の継続確保

協議会で話し合う

- 子ども・保護者・住民の声から活動方針を協議
- 学校・地域・運営主体の役割を整理
- 参加状況・負担を振り返り、改善策を協議

協働本部がつなぐ

- 推進員等を核に、事務局と協力者チームを組む
- 指導・見守り・広報・会計を分担して支援



3類型を同時に進める、共通の土台

市の共通窓口 | 指導者研修 | 会費・移動支援 | 定期的な点検

市・教育委員会と運営主体が、制度設計・予算・契約・安全管理の責任を明確にします。
学校運営協議会や協働本部の活用と、クラブの運営責任は区別して整理します。

提供資料の3類型と、文部科学省の制度説明を基に作成した提案